

「杜の都から世界を照らしたい～宮城県とタイの架け橋を目指して～ Vol.1」

みやぎ海外絆大使

JICA 海外協力隊 2023 年度 4 次隊 タイ・日本語教育

横澤 萌佳

サワディーカー。JICA 海外協力隊 2023 年度 4 次隊 タイ・日本語教育の横澤萌佳です。私は、タイの東部チャンタブリー県にある、中高一貫校で6月中旬より日本語教師として活動しています。

チャンタブリー県は、首都バンコクから車や高速バスで5時間のところにあります。地下鉄や電車は無い為、県をまたぐ移動は高速バスになります。トロピカルフルーツの産地、宝石商の中心地、古き良きオールドタウンと言われています。「チャンタブリー」という地名は、「月の町」という意味です。月にはウサギがいるということで輝く月の中にウサギがいるマークが県の紋章になっています。そのため、町の標識や電灯には、必ずウサギが描いてあります。

言語は、英語が殆ど通じません。その為、タイ語を使って生活をしています。タイ語が読めないと、話せないと、生活することがとても難しいです。日々、タイ語の勉強は欠かせません。食事は、平日は学校の食堂で買って、土日は市場で食べたりしています。1食、約100円～280円程度です。歩道は整備されているため、職場や買い物には徒歩で行きます。

私が赴任した学校には、日本語特別教室と日本語教師専用の職員室もあります。中学校までは、外国語科目の選択必修科目として日本語を学習していますが、高校からは専攻として日本語を学習しています。

現在、私は、タイ人の日本語教師と協働で主に高校生の授業を担当しています。教科書の内容を教えることはもちろんですが、日本文化を実際に体験する授業も大切にしています。先日、七夕飾りを作りました。例年、竹に模した装飾を飾り、短冊に願い事を書く活動を行っていたようです。今年は、さらに、例年の活動に加え、「仙台七夕まつり」を紹介し、「吹き流し」を生徒たちと作りました。生徒たちは、完成した「吹き流し」の前で写真を撮ったり、掲示した宮城県のパンフレットを見たりと興味津々でした。

さいわいなことに、アニメ「ハイキュー」のおかげで「宮城県」を知っている生徒は多数います。また、高校3年生の授業で伊達政宗を扱ったことがあるようで、「宮城県」や「仙台」というワードを聞いて、「知っている！！勉強しました！！」と嬉しいリアクションを貰うこともありました。タイは宮城県にとって、タイフェスや仙台～タイ間の国際線があることで、比較的身近な国だと思います。授業で日本語を教えることはもちろんですが、1人でも多くの生徒に宮城県や仙台を知ってもらうきっかけも提供していきたいと思っています。



ウサギが描かれた町の標識



七夕飾りの作り方を説明する様子



吹き流しを制作する様子



七夕飾りの前に写真を撮りに来た生徒



完成した「吹き流し」と宮城県のパフレット